
☒指揮者プロフィール☒

山本 昇先生□とにかく、そのバイタリティには、どの会員も頭が上がりません。この会が今あるのも、並々ならぬ先生の御指導のおかげです。長野高校音楽班のみならず、SBCアンサンブル、コール・アカデミーなどで活躍されています。

山田恒幸□音感のするどさは、人並以上のものがあります常に冷静で、曲の全体構造を的確に把握、指示する様は、「日本のカラヤン」とか(?)

山田邦彦□小柄ながら、大きな豊かな音楽づくりを要求してきます。どの年代の人にも受け入れられるのは、彼のそんな姿勢からくるのでしょう。

KITEのこと

長野高校合唱班OBによって構成される会員が全国各地に散らばること100余名。長野高校の校章である とんび<=K i t e>をいただいた私達は、毎春こうしてふるさと 信州にもどり歌声を皆様におきかせてまいりました。第10回記念演奏会で、ひとつの「フシ」を経験した私達は、また新たな気持ちで再出発しようと決意しました。「歌うとんびの仲間」を今後ともよろしくお願い申し上げます。



KITE SOCIETY 第11回定期演奏会

■76. 3. 27 (土) 6:00 P.M. ■長野勤労者福祉センター■賛助/長野高校合唱班

プログラム

- 多田武彦 作曲
- I、 男声合唱組曲 <草野心平の詩から>
- 石家荘にて
天
金魚
雨
さくら散る
- 指揮 山田恒幸

- II、 日本民謡メドレー
- <ソーラン節>
<最上川舟歌>
<木曾節>
<おてもやん> & etc
- 指揮 山田邦彦

- William Byrd 作曲
- III、 <Missa For Three Voices>より
- Kyrie
Gloria
Sanctus
Agnus Dei
- 合唱 長野高校合唱班 指揮 小島澄男

- 間宮芳生 作曲
- IV、 <合唱のためのコンポジションⅢ>
- 鱸
羯鼓
引き念仏
- 指揮 山本 昇

演奏曲目の御紹介

◎草野心平の詩から

日本的詩情を明暗・色彩によって、しっとりとうたいあげた心平の詩に、抒情性豊かな「多田節」が見事に調和し、美しい曲となっています。詩・草野心平+曲・多田武彦というとり合わせは、男声合唱曲の古典といわれるものになっています。第四ステージでとり上げる間宮芳生の曲と比較するとき、日本の合唱音楽の変貌ぶりにきっと驚かれることでしょう。

◎三声のためのミサ

ウィリアム・バード (1543~1623) は、イタリアのパレストリーナ、フランドルのラッスと並び称されるイギリスの作曲家です。作品には多くのミサ曲、ラテン語のモテト、英語による世俗曲等数多くありますが、今夜お送りする「三声のためのミサ」のような宗教合唱音楽にかけては、イギリス最大の作曲家といえるでしょう。

◎日本民謡メドレー

皆様、よく御存知の民謡ばかりです。日本各地の方言が、静と動のリズム、メロディーによって、その味を見せてくれます。北は、北海道の「ソーラン節」、東北の「最上川舟唄」……、南は九州の「おてもやん」「五木の子守唄」……

◎合唱のためのコンポジションⅢ

歌詞は単純です。半ばに、「このつこがねのくらぬしさまは……」という数え唄の一節が出てくる他は、「オー(ヒ) コー(エ)」「ソラーエ」「ヤトコセー」「アラドーコイショ」……といったかけ声が繰り返されるだけです。しかし、その言葉も、またそれを色彩するメロディーもリズムも、明らかに私達日本人のものです。日本の音楽をバラバラにし、そのエキスをとり出しまとめたとき、構成体としての作品、つまりコンポジションができたのでしょうか。

□ごあいさつ

今晚は、ようこそおいで下さいました。新しい仲間を加え、お送りする、カイト・コンサートも、11回を迎えました。全国各地より集まったメンバーのこと、どこまで満足いただけますか。とにかく最後まで男声の織りなす、さまざまなハーモニーをお楽しみ下さい。